



'86克雪・利雪産業技術見本市

1月17日(金)～19日(日)

最新の除雪機械や雪に係る生活用品等を一堂に集めた「'86克雪・利雪産業技術見本市」が富山産業展示館（テクノホール）で開催されました。



エッセイ

サルとの出会い 人との出会い

赤座 久明

黒部川の流域には、野生のニホンザルが住んでいる。雪が降ると黒部川の河原近くへやって来て、ここで越冬するので、冬は野生のサルを観察しやすい季節である。だから、めっぱう寒がりでも里山まで雪が降りてくると、子供のようにうれしくなってくる。そして、うれしい理由がもう一つある。大学時代の四年間を富山で過ごし、今はそれぞれの郷里で暮らしている仲間達が、まるでサルの群れのように雪の中を宇奈月温泉に

集まってくるのだ。サルの朝は遅い。まだ薄暗い夜明けの道を急いでやって来たのに、きのうの夕方入った泊り場の雑木林は静寂そのものだ。尾根筋に朝日が差し、光が山腹を下り、黒部川の谷底を照らし始めるのは、もう九時に近い頃である。くり返し双眼鏡で見ていると少しずつ形が変わるので、かろうじてサルだということがわかるくらいに、まるで木の株のような固まりがいくつかは見えるのだが、五十頭近い大きな群れの存在感がまるで無い。

十一時。サルの行動観察に少々飽きてきた頃、上空をイヌワシが舞い始めた。黒部川の流域には、イヌワシによく会えるポイントがいくつもある。そこは、きつと上昇気流が発生しやすく、長い間風に乗っていられる場所で、近くの岩壁にはきつと巣があるのだろう。と熱っぽく語ってくれる友人の一人は、今日は私よりずっと上流へ観察に向かったが、彼もきつとどこかでこのワシを見ていることだろう。

イヌワシの姿にわき目を振っていたら、山の斜面全体にサルが広がってしまった。雪が少なく地面が露出しているときには、落葉をかき分けてブナの実やススキの芽を探すが、雪の日が何日も続くとサルの餌は、樹皮や枝先の冬芽に限定される。そういう餌は雑木林全体に散らばっているから、それぞれが思い思いの木に登り、自由に食べられている。農耕が始まる以前の時代、私達の祖先の採集生活もまた、このように自由に分散したゆるやかな集団行動が基本だったのでないか、などと勝手な空想にふけるのも楽しみの一つだ。

昼を過ぎてようやく陽差しが強くなってきた。サルがいる左岸の斜面が白く輝いてスクリーンのようだ。一方、私が腰をおろしている右岸は相変わらずの日陰で、吐息が白いままである。サルたちはスクリーンの中で、ちよつとの間居眠りをし、また食へはじめる。単調な観察が夕暮れまで続く。

このような、筋骨きも、見せ場も無い野生のドラマの中に、ようやく文脈が見えてきた頃、二週間の調査が終わる。正月を黒部の谷で過ごし、郷里へ帰る友人の一人が言った。

「富山へ来ると、ずいぶんおしやべりになってしまいました。」
冬の黒部川は、人と自然が出会い、友と友が出会う場である。
(日本サル研究者)



富山県は、昭和六十年三月に都道府県レベルでは、全国で初めての総合雪対策条例を制定しました。そしてこの条例に基づいた総合雪対策基本計画を策定しましたが、この計画は、「雪に強い、いきいき富山」の創造をめざし、県・市町村・県民が一体となって積極的に「雪」と取り組んでいこうとしています。(基本計画について詳しくは、一月号をご覧ください。)

冬のイベントアラカルト

『86全国克雪・利雪シンポジウム』 ターの辺見じゅん氏の招待講演雪に関し同じ問題意識をもつと、「利雪・親雪時代をいかに拓くか」をテーマにパネルディスカッションが行われました。また、このシンポジウムに合

「六十年代の雪対策、施設の方角」と題する建設省の杉山好信氏の講演がありました。午後からは、県イメージダイレク

冬は、スキー場が大賑い。県下の各スキー場では、それぞれ工夫をこらした多彩なイベントがめじろ押し。

県営ゴンドラスキー場では一月十五日に、ゴンドラ誕生祭が行われました。

二月二十二日、二十三日は、雪の祭典が予定されています。



各地の動き

克雪対策、

富山県内の各市町村では、雪を克服しようとするさまざまな雪対策の装置を設けています。

今回、このシンポジウム開催に合わせてこれらのユニークな装置を見学する雪対策研修バスが走りまわった。この誌上でも、このバスコースに添ってこれらの装置を概観してみよう。

宇奈月町は温泉の町、そこで旅館やホテルで使った温泉の廃湯を利用したロードヒーティングで雪を溶かそうというもの。

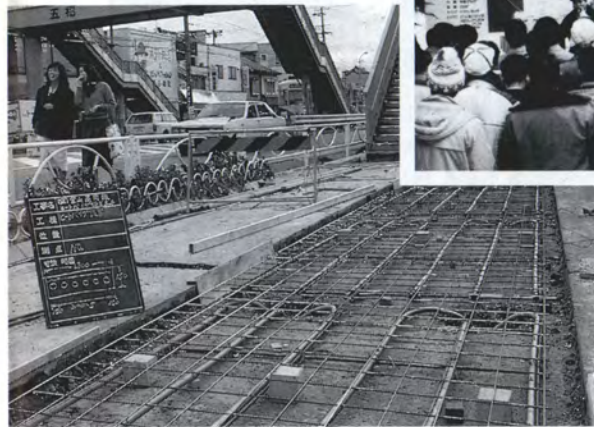
ホテル・旅館からでる廃湯を熱交換機付タンクに集中し、地表に埋設したヒートパイプ中の水と熱交換を行い、道路路面を温め雪を溶かします。



▲温泉の廃湯を利用したロードヒーティング (宇奈月町)



▲克雪施設の説明を受けました。



▲地熱を利用して消雪 ヒートパイプ型消雪装置 (富山市内)

富山市内

富山大学前の歩道二百十五メートルは、地熱を利用して歩道上の雪を溶かすヒートパイプ型消雪装置が設置されています。

パイプの中の、フロンガスが、地下九メートルの地熱で気化され上昇し、地表で雪を溶かした後、液化し地下に流れ、再び地熱で気化する、これが繰り返されます。



▲流雪溝として利用されるスノーレス都市下水道 (井波町)

井波町

都市下水道は主として市街地内の雨水排除を目的とする幅の広い水路ですが、流雪溝として利用するには水位が低く、うまくいきません。そこで考えられたのが、この町のスノーレス都市下水道。一本の都市下水道の中央に仕切りの壁を設け二本の通路を作り、その片側の通路にだけ水を流せば水位

が上ががり、流雪溝として利用ができます。反対側の通路は、流雪による閉塞があるかどうかの点検作業等に使用します。

また、消流雪の効果を上げるため山腹に二基の消流雪貯水槽を設置、併せて二万三千トンの水を確保し、積雪時には消雪装置や流雪装置に導水管を通じ水を供給しています。また、平常時には防火用水になります

庄川町

ここは、全国最高水準の消雪地帯です。路上散水消雪が主ですが、ポンプを使わない自然流下方式で、一つの消雪系統でパイプが三千六百メートルと全国一の長さを誇っているものもあります。また、消雪率と言う点でも全国一で、町内の県道と町道の除雪必要区間の約四割を消雪装置で消雪しています。



▲全国最高水準の路上散水消雪 (庄川町)

冬のイベントアラカルト

《冬のふれあい市》

とじこもりがちな冬の生活に活気を与え、賢く明るい暮らしづくりに役立てる冬のマーケット「冬のふれあい市」。すでに六市町で、それぞれ地域の特色を盛り込んで開催されています。

二月二十八日には、城端町の西町商店街で行われます。



《太閤山ランド》

一年を通して利用できる施設をめざして、太閤山ランドに今冬、チビッコスキー場がお目見えしました。スキーヤンソリ滑りに最適のコースです。

なお、二月九日には冬季県民レクリエーション大会「雪のシンフォニー」が、二月十六日には、第三回歩くスキーフェスティバルが行われます。



《スケーティングフェスティバル》

スキーと並ぶ冬期スポーツは、やっぱりスケート。一月十八日、富山スケートセンターでスケーティングフェスティバルが開かれ、小・中学生等が多数参加しました。また、プロスケターの渡部絵美さんの模範演技や「絵美のワンプointレッスン」に人気が集まりました。



《その他》

これらの他にも冬のイベントがいっぱい。二月一日には、県民会館で「雪のファンタジーコンサート」、一・二日には「宇奈月温泉雪のカーニバル」。二月二日から十一日には、「上平雪まつり」、二月八・九日には、「利賀そばまつり」、二月十六日には、高岡市で「総合雪対策公開テレビシンポジウム」が開かれます。

豊かなふるさとづくりを築く学習活動推進事業



今、私達温かなコミュニティの形成のために、その知恵と汗を流す時代です。

県教育委員会では、心のかよひ合う地域社会づくりをめざして、昭和六十年度から「豊かなふるさとを築く学習活動推進事業」を県下、全市町村で実施しています。この事業は、五つの学習事業からなっています。

▲ふるさとづくりリーダー養成事業
手話の技法を学習し、聴覚障害者への積極的な奉仕活動を行い、明るいふるさとづくりの推進を図る。

(一) 学習ニュース提供事業

それぞれの地域の実態に応じ、ふるさとづくりの推進に必要な学習ニュースを市町村の住民に、広くお知らせする事業です。

「ふるさとづくり学習情報」の発行(富山市)、「たかおか学習ニュース」の発行(高岡市)や「こよみ しゃきょう」の全戸配布(福光町)など十七市町村でユニークな学習ニュースの提供事業を行っています。

(二) 学習モデル事業

新しいふるさとづくりのために青少年や一般人、高齢者を対象に、市町村でモデル的な学習活動を行う事業です。乳幼児期の家庭教育の振興を



▲ふるさとづくりリーダー養成事業
ふるさと山道の立看板をつくります

(三) ふるさとづくりボランティア活動事業

地域住民の温かい心のふれあうふるさとづくりをめざして、青少年、婦人、高齢者を対象にボランティア活動を推進する事業です。

少年を対象とした郷土芸能「獅子舞」の伝承(黒部市)、公民館を拠点とした少年と高齢者によるボランティア活動(立山町)や若妻ボランティア活動(大山村)など各世代にわたり活発な活動が展開されています。

(四) ふるさとづくりリーダー養成事業

豊かなふるさとづくりを推進するために、青少年、一般人、高齢者を対象に団体指導者を養成する事業です。

「ふるさとを知り、育て、造る」若者ゼミナール(高岡市)一般人を対象に「ふるさとづくり手話リーダー養成事業」(婦

郷土の芸能「獅子舞」の歴史を学び、「ふるさとに伝わる心」としてとらえ、伝承活動を通して世代間相互の理解を深め、ふるさとづくりの推進を図る。

ふるさとづくりボランティア活動事業▼



中町)や、ふるさとづくり若いリーダー養成(城端町)、ふるさとづくり婦人リーダー養成(福岡町)など地域の実態に合わせたさまざまな指導者の養成が行われています。

人の社会参加、高齢者教育の推進、社会教育施設の活性化を図るための具体的な調査研究を行う事業です。

婦人の社会参加についての調査研究(滑川市)、青少年に対する意識調査と家庭教育調査(朝日町・井波町)や、各世代間の学習要求調査(八尾町・平村)など七市町村で調査研究に取り組んでいます。

(五) ふるさとづくり学習リサーチ事業

市町村の青少年健全育成や婦

昭和61年 青少年健全育成こよみ

85 こよみしゃきょう

細入村青少年育成村民会議

公民館や社会教育施設等及び他の公共機関において実施される生涯学習に関する行事を掲載する。学習ニュース提供事業

11月	5月	9月
2月	6月	10月
3月	7月	11月
4月	8月	12月

肝臓病

肝臓は「肝腎かなめ」という言葉があるように、腎臓とからんで大変重要な臓器です。また、からだの中では最も大きな臓器で、二〇〇〇〜五〇〇グラムもあります。

からだの中の化学工場

肝臓は「体内の化学工場」という異名を持っています。新陳代謝(吸収したブドウ糖を合成貯蔵し、必要に応じて再度分解する等)の中心的な役割を担い、胆汁(脂肪の消化液)の生成、解毒(有毒物や異物を無毒化する)作用等、からだにとっては大変重要な働きをしています。

特有の自覚症状がない

肝臓が他の臓器と大きく異なる点は『たとえ七〇パーセントを切り取っても、残りの三〇パ

ーセントで十分その働きをやつてのける』ということですが、これは大変なメリットといえますが、逆に七〇パーセントが障害を受けても、何ら自覚症状が出ないということになります。

肝臓病のはじめにはほとんど自覚症状はありません。たとえば、食欲不振等というもので、肝臓病特有の症状とはいえないことが多いのです。

肝臓病はなぜ起る

肝臓病には大きく分けて細菌やウイルスで起る炎症(肝炎)と悪性腫瘍(肝がん)の二つがあります。よく問題になる肝硬変は肝炎が長く続いた結果起る病気です。炎症を起こす毎に増える線維のため肝臓が硬くなつた状態をいいます。日本人の肝硬変の八〇〜八五パーセントが

ウイルス性肝炎によるもので、一〇〜一五パーセントがアルコールによるといわれています。

肝臓病の予防

肝臓病にならないために次のことに注意しましょう。
一、生活を規則正しくする。
二、過労やストレスを連続させない(非常に忙しい日が続いた時には後で休養をとる)。

三、蛋白質を不足させない。偏食しない。ビタミンの豊富な野菜を十分にとる等。
また、最近日本でも多くなっている「アルコールのとりすぎ」には是非注意したいものです。

肝障害の症状

沈黙の臓器

- 食欲不振
- やせる
- 嘔吐
- 全身倦怠



肝機能検査の標準値

- GOT (グルタミン酸オキザロ酢酸トランスアミナーゼ) 8~30KU
- GPT (グルタミン酸ピルビン酸トランスアミナーゼ) 5~25KU
- ALP (アルカリホスファターゼ) 2.7~10KAU
- γ-GTP (ガンマグルタミールトランスペプチダーゼ) 0~58IU/ℓ

アルコールによる肝障害

アルコール性脂肪肝
● 肝臓に脂肪がつく



急性アルコール性肝炎
● 食欲不振
● 腹痛
● 吐気・嘔吐



ジブ症候群
● 黄疸
● 血液脂肪
● 赤血球破壊



アルコール性肝硬変
● 肝硬変
● 線維化



第十六回県政世論調査の概要

調査の概要

調査の目的、項目、方法等については、次のとおりです

1 調査の目的

この調査は、県政の各分野についての富山県民の関心、要望などをとらえ、今後の施策立案の参考資料とすることを目的とする。

2 調査の項目

- | | |
|------------|-------------|
| (1) スポーツ | (7) 住宅 |
| (2) 高齢化対策 | (8) 少年非行 |
| (3) ボランティア | (9) 施策の認識 |
| (4) 男女平等感 | (10) 広報・公聴 |
| (5) 花と緑 | (11) 県政への要望 |
| (6) 観光富山 | |

3 調査の設計

- | | |
|----------|-----------------|
| (1) 調査地域 | 富山県全域 |
| (2) 調査対象 | 満20歳以上79歳迄の男女 |
| (3) 標本数 | 1,200 |
| (4) 抽出方法 | 層化副次無作為抽出法 |
| (5) 調査期間 | 昭和60年8月3日~8月16日 |
| (6) 調査方法 | 調査員による個別面接調査 |

4 回収の結果

- | | |
|-----------|----------------|
| (1) 標本数 | 1,200 (100.0%) |
| (2) 回収数 | 947 (-78.9%) |
| (3) 回収不能数 | 253 (21.1%) |

- | | |
|------|----|
| 転居 | 40 |
| 住所不明 | 20 |
| 病气 | 9 |
| 長期不在 | 35 |
| 拒否 | 87 |
| 一時不在 | 43 |
| 調査能力 | 19 |

調査結果の概要

次の四項目について概要をお知らせします。

- 一、スポーツ
 - 二、高齢化対策
 - 三、男女平等感
 - 四、県政への要望
- なお、この調査についてのお問い合わせ等については、県庁広報課公聴係までご連絡ください。

「第十六回県政世論調査」の結果を紹介します。

この調査は、県民のみなさんが県政にどのような関心や、期待を持っておられるかを的確には握し、今後の県政推進の基礎資料とするため行ったものです。

今回は、健康の保持増進・体力の向上を図るためのスポーツ・レクリエーションの振興に関する調査を中心に、高齢化社会の到来を迎えてその対応のあり方や一九八五年が国連婦人の十年の最終年であることから男女の平等を調査の項目としました。

この一年間に、県民のほぼ六割(五八・〇%)がスポーツを「やった」と答えており、これを五十七年度調査と比較すると五・三ポイントアップしています。男女別では、男性の七二・一%、女性の四二・九%が「やった」と答えています。また、年齢別では年代が高くなるほど「やった」割合が低くなっています。

この一年間に「やったことのある」スポーツでは、「ソフトボール」をあげる人が四〇・六%と最も多く、次いで「ラジオ・テレビ体操」が三二・〇%、「水泳」二六・四%、「スキー」二六・〇%、「ボウリング」二五・三%などがほぼ同率で上位にあげられました。

スポーツを「やらなかった」とする理由としては、「仕事で忙しくて時間が足りない」が五二・一%と最も多く、次いで「体力に自信がなくなった」三六・五%が主なものとなっています。

また、将来スポーツをやってみたくどうか、やるとすればどんなスポーツ

将来やりたいスポーツ上位5位 (毎日又は少なくとも週1回) (%)

	1位	2位	3位	4位	5位
性別					
男性	ジョギング 18.4	ゴルフ 15.2	テニスソフトボール 14.1	ラジオ体操 12.7	野球 9.0
女性	ジョギング 12.4	ラジオ体操 12.2	テニス 12.0	バドミントン 10.5	縄とび 9.4
年齢					
20~29歳	テニス 28.2	ジョギング 20.6	水泳 13.7	スキー 12.2	バドミントン 11.5
30~39歳	ジョギング 21.1	テニス 19.7	バドミントン 13.1	水泳 11.7	スキー 10.8
40~49歳	ジョギング 17.2	ソフトボール 16.8	ゴルフラジオ体操 13.4	テニス 13.0	卓球 11.3
50~59歳	ラジオ体操 19.7	ゲートボール 12.8	ジョギング 11.2	ゴルフ 8.5	卓球 7.4
60歳以上	ゲートボール 16.9	ラジオ体操 13.0	ジョギング 7.3	ゴルフ 2.8	ボウリング 2.3

どの程度の頻度でやってみたくか聞いたところ、毎日又は週一回程度のスポーツでは、「やりたいと思う」人が六三・〇%。スポーツの内容では、「ジョギング」が男性一八・四%、女性二二・四%とトップを占めています。また、週末等を利用した月に一回程度のスポーツを「やりたいと思う」人は、五一・三%となっており、男性では、「ゴルフ」が一九・五%、女性では、「テニス」が一〇・七%とトップを占めました。

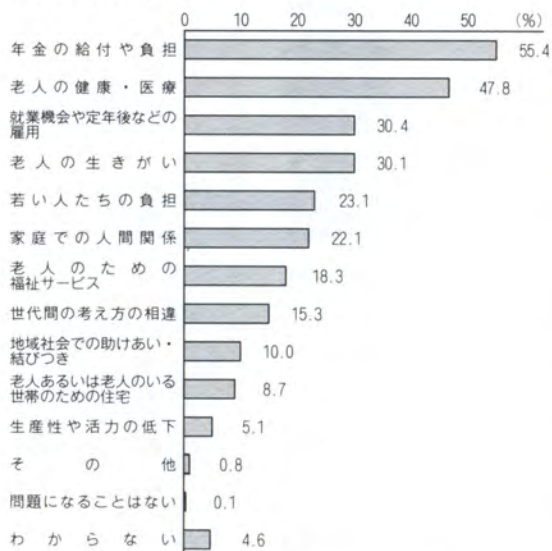
スポーツ

高齢化社会

富山県の高齢化のテンポは早く、老年人口比率は全国平均を上回っており(全国平均九・一%に対し富山県、一一・二%・昭和五十五年国勢調査による)、昭和六十五年には、一四・五%(全国平均一一・六%)、八十五年には二二・四%(全国平均一八・八%)にも達すると推計されています。

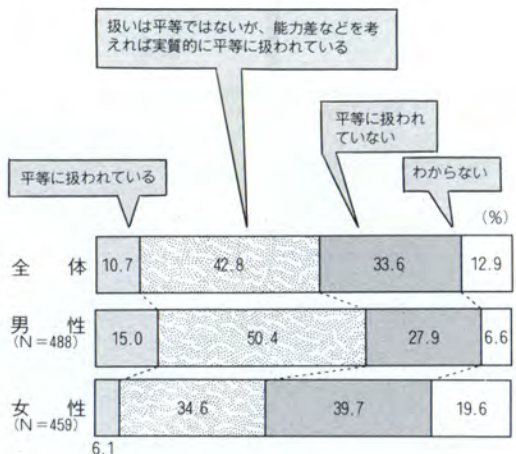
このような高齢化社会の進行により、今後どのようなことが問題になってくるかについて意見を求めたところ、「年金の給付や負担」と答える人が五五・四

高齢社会の問題点



また、高齢化社会における「福祉と負担」についての考えを聞いたところ、「福祉サービスを続けるために、働く世代ばかりでなく、サービスを受ける高齢者にも自分の負担をしてもらうべきだ」とする人が四六・三%と、各年齢層を通じて県民の半数近くを占めています。以下、「働く世代の負担が重くなっても、福祉サービスは進めるべきだ」と「働く世代の負担が重くなるので、多少福祉サービスが低下しても止むを得ない」とする考えを示す人は同率の一八・四%となっています。

女性は平等に扱われているか



男性と女性は法の下で平等とされています。女性が日常の家庭や社会生活において男性と平等に扱われているか否かについては、「平等に扱われている」と答えた人は一〇・七%、「扱いは平等でないが、能力差などを考えれば実質的に平等に扱われている」と答えた人は四二・八%で、これらの人を合わせると半数以上の人が、女性は平等に扱われているとみています。他方、「平等に扱われていない」と答えた人は三三・六%となっています。

男女別では、「平等に扱われていない」とする女性の答えが三九・七%と高いのに対し、男性は二七・九%と平等感に性差が見られます。

「平等に扱われていない」と答えた方に、どんな場所で感じるかお聞きしたところ、「家庭の中で」が四二・一%、「職場の中で」が五〇・九%、「地域社会の中で」が三五・二%となっています。これを昭和五十七年度の県政世論調査と比較すると、「家庭の中で」と答

る人が減少し、替わって「職場の中で」と答える人がいくぶん多くなっています。また、「これら「家庭」、「職場」、「地域社会」の各場面ごとの平等に扱われていない理由としては、「家庭」では「古くからのしきたりや慣習がある」が四九・三%、「職場」では、「女性を男性の補助的な労働者としてしかみていない」三三・二%、「地域社会」では、「古くからのしきたりや慣習がある」が三九・三%とそれぞれトップを占めました。男女間の意識差、見方の差は全般にわたって認められました。

県政への要望上位10項目 (昭和57年度～昭和60年度) (%)

年度	57	58	59	60
1位	物価・消費生活 (47.1)	物価・消費生活 (49.8)	物価・消費生活 (38.1)	物価・消費生活 (35.4)
2位	社会福祉 (29.9)	社会福祉 (34.6)	下水道整備 (28.9)	社会福祉 (27.1)
3位	学校教育 (26.7)	下水道整備 (32.2)	社会福祉 (28.7)	学校教育 (26.7)
4位	医療・保健衛生 (24.5)	学校教育 (29.9)	学校教育 (28.4)	下水道整備 (25.9)
5位	下水道整備 (22.9)	医療・保健衛生 (24.7)	医療・保健衛生 (24.6)	北陸新幹線 (21.9)
6位	北陸新幹線 (20.3)	雇用安定・労働対策 (23.5)	道路整備 (23.7)	医療・保健衛生 (21.9)
7位	青少年健全育成 (20.2)	道路整備 (19.4)	北陸新幹線 (23.3)	雇用・労働対策 (20.9)
8位	雇用安定・労働対策 (20.0)	青少年健全育成 (19.2)	青少年健全育成 (21.9)	道路整備 (20.0)
9位	道路整備 (17.4)	交通安全 (19.0)	雇用安定・労働対策 (17.9)	青少年健全育成 (16.7)
10位	交通安全 (15.3)	北陸新幹線 (18.2)	大学・短大整備 (16.7)	大学・短大整備 (16.2)

次いで、「社会福祉」が二七・一%、「学校教育」が二六・七%となっており、順位的には、昨年度より一ランクずつアップしているものの、率的には、双方ともダウンしています。

このようななかにあつて、昨年度七位だった「北陸新幹線」が二・〇ポイント増加し、第五位にランクアップしており、特に注目されます。

また、今回の調査で、現在県が進めている主要施策について、県民がどの程度周知しているかを聞いた「施策の認識」の項でも、「北陸新幹線建設促進」が八三・七%とかつてない高い周知率を示し第一位を占めています。ところで、今回から、この「県政への要望」に対する選択肢に、「国際交流」と「高度情報システム」が加えられましたが、それぞれ五・一%と四・一%の数値が示されました。

男女平等感

県政への要望

ステンドグラスの橋 神楽橋

昨年の暮れ、新湊市に虹色に輝くステンドグラスを欄干にはめこんだ、神楽橋がお目見えしました。

このステンドグラスは、地元新湊市出身のステンドグラス作家大伴三三弥氏の作品で、花・鳥・海などを図案にあしらっています。

ステンドグラスは、光によって様々に表情を変えます。また、橋の上の歩道にもそれぞれステンドグラスの影が映し出されます。

ステンドグラスの橋は世界にも例がありません。この橋は、魚港近くの内川にかかっています。あなたも一度、見に出かけませんか。



見た聞いた 私の県政ルポ

県営ゴンドラ スキー場



▲係りの方から説明を受けました



▲最新鋭の圧雪車に乗りました



▲ゴンドラ駅、右が長井さん左が山本さん。



▲これからゴンドラで初すべり

県営ゴンドラスキー場は、立山山麓の大山町本宮にあります。富山県企業局が事業者となっている、県営のスキー場です。今シーズンも幸い雪に恵まれ富山県内外からのスキーファンで賑わっています。

そこで今回は、この県営ゴンドラスキー場を大沢野町にお住いの長井功子さんと、立山町にお住いの山本髪美さんのお二人にルポしていただきました。

県営ゴンドラの最新機で 腕前もアップ

今年は、ハレー彗星のいたずらか、雪に恵まれ、スキー場開きも予定どおりで上々のスタート。私もスキーヤーのひとり、ソワソワ・ドキドキ、落ち着かない毎日。

今日は、シーズン初めて県営ゴンドラへやってきたわけですが、スキーヤーではなく、レポーターとして、スキー場の視察です。

県営ゴンドラは今年、リフト券自動改札が装置されたり、アメリカ製の最新鋭圧雪車を導入して、スピードアップとゲレンデ・メンテナンスの強化を図り、楽しく安全に滑ってもらおうと努めているそうです。

リフト券自動改札は、県内初めて導入されました。今までですと、季節従業員や年令の高い改札係員にとってたいへんな重労働だったそうです。しかし自動になると、多種類の券を正確

且つ迅速に改札してしまうんです。

そして、スキーヤーの強力助っ人、最新鋭圧雪車は、新雪時の圧雪やコブ削りは勿論、ゲレンデの固まった雪をミキシングして適度の圧雪を行い、良好なゲレンデ状態に整備することが可能になりました。

これにより常に新雪時と同様のゲレンデ状態で爽快に滑れるようになり、スキーの技術の大幅なレベルアップもまちがいないし、新鋭圧雪車はスキーヤーの強力な味方になるでしょう、ということでした。これで私も腕があがるかな!?

カラフルでスマートなゴンドラが、樹水の中を一気に運んでくれます。山頂までの景色がまた格別。今シーズンまだの方、県営ゴンドラスキー場で、おもしろいエンジョイしてみてもいいかが……。

レポーター 長井功子
山本髪子

県広報課では、この「私の県政ルポ」のコーナーに参加・協力して下さるレポーターを募集しています。

応募の資格は性別・年齢・職業を問いません。個人・グループでもかまいません。県政に対する卒直な意見・感想を語っていただけの方の応募を心からお待ちしています。

▼応募要領

応募は葉書または電話で

富山市新緑曲輪 一番七号
富山県知事公室広報課
「私の県政ルポ」係宛

裏

見たい施設名など
氏名
住所
連絡先(電話番号)
性別・年齢・職業
注)グループの場合は代表者の名でお願ひします。

表

▼電話での応募および問い合わせ

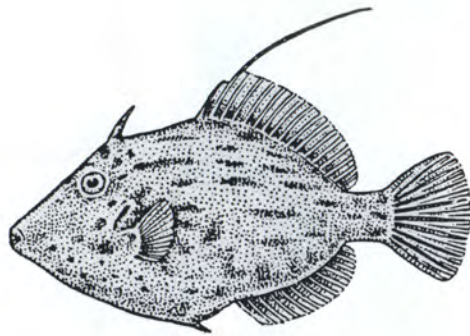
県広報課 ☎(〇七六四)三二一
一四一一一 (内三二八)

カワハギ

全国各地では、ゲバ・ハゲ・オイハギ・マルハゲ・ウシハゲ・キハゲ・ツノコ・キンチャク・コグリ・ウシズラ・カクコグリ・ハゲコウベ・マルハゲ・コウムキ・カワムキ・コンノウ・ツノコなどと呼ばれ、富山では、バクチコキ・コウモリダイ、外国では、レザーフィッシュ・ファイルフィッシュと呼ばれているのがカワハギ。

カワハギ科の魚は、日本に十二種類、富山湾で獲れるのは七種類、なかでもウマズラハギとカワハギが多い。皮は堅いが眠そうな小さな目とおちよぼ口は愛敬がある。

とやま旬の味



干物などもおいしい。とりわけ、肝臓を入れた味噌汁は最高だという。また、カワハギのこごりは、富山の冬の味覚の代表でもある。

伝統を守り続けて

― 城端中スキー部 ―

ただ今、ウインタースポーツの花盛り。ウインタースポーツと言え、やっぱりスキー。

城端町のスキーの歴史を語るとき大正七年の立野が原スキークラブの誕生までさかのぼります。このクラブは、戦前にはオリンピック候補選手を出したのをはじめ、今日でも県内外の大会で優秀な成績を修めており、まさに富山県のスキー発展の牽引車の役割を果たしてきました。

まちからむらから

この輝やかな伝統をしっかりと守り続けているのが、城端中学校スキー部です。

スキーシーズンに向けて、夏場は陸上競技を通してみっちり基礎体力づくり。今年は三年生が主力で、しかも昨年の県中学駅伝で優勝を飾っており、大いに期待されています。



「今年は、城端中で上位を独占しよう。」と約五十人の部員は、連日激しく雪が降りしきる中、練習に汗を流しています。

しかし、城端中スキー部の活躍も現在はノルディック部門だけで、アルペン部門は残念ながら今一つ振いません。部員たちは「アルペン部門でも上位進出を……。」と近くに本格的なスキー場の建設を待ち望んでいます。

くらしの相談室

自動車購入時の 所有権について

自動車を購入した時点で購入者が代金を現金一括払いで支払い契約をした場合、次のように二通りの名義書き換え方法があります。

①当初から購入者名で登録され、車検証の所有名義は購入者名で記載される。

②現金一括払いの約束をしてもメーカー系自動車販売会社は代金を受けとるまで会社が所有権を留保し、代金を受けとったあと購入者名義に変更する。

また、購入者が代金を分割して支払う約束をした場合は、代金が完全に支払われるまで所有権は自動車販売会社のものになっています。です

から代金を全額支払ったら、直ちに所有者名義を購入者に変更しておく必要があります。所有権を書き換える前に名義上の所有者である自動車販売会社が倒産した場合、所有権の移転手続きは旧所有者と新所有者双方の書類の提出と捺印が必要であるため、移転の手続きが難しくなります。この場合、裁判所に所有権登録請求訴訟をおこし、もし相手が所在不明のときは公示送達という制度により訴訟をすすめる、判決をもらって所有権登録をします。

■所有権がないと

所有権がない場合、次のようなことが問題となります。

①自動車を他に売ることができないため下取りしてもらうことが不可能になる。

②自動車を自分勝手に廃車することできない。

③下取りや廃車ができない自動車でも自動車税がかかる。

■相談事例

「自動車の販売会社が倒産したらメーカー系自動車販売会社が車を引

きあげていくといってきたり、直ちにうしたらよいか。」という相談が目立つようになりました。そこでセンターに寄せられた相談事例と自動車を購入する際の所有権について説明してみましよう。

・自動車販売会社で自動車を現金一括払いで購入した。その後その会社が倒産し、メーカー系販売会社からまだ残債があるので自動車を引きあげるといつてきたがどうしたらよいか。

・中古自動車を分割払い契約で購入したが、分割払いでは高くなるので自動車販売会社と話し合っただけで残金を一括で支払った。がその後、自動車販売会社が倒産した。ところがクレジット会社に残金が支払われていなかったため、クレジット会社から支払い請求がきた。どうしたらよいか。

このような内容の相談が多く寄せられています。先の申し出者の相談についてはメーカー系販売会社と話し合っただけで解決しましたが、その内容により問題点がまちまちで自動車の購入者が①自動車代金の半額を支払った、②自動

車代金の一部を負担した、③所有権書き換え手数料を負担した、など条件によって異なった解決がされています。後者の相談については、自動車販売会社は、クレジット会社の代理人であるのではないかということを中心としてクレジットの手数料と①パーセント程度の損料を自動車の購入者が負担することで解決をみています。

自動車販売会社から自動車を現金で購入し、所有者名義を書き換えないうちに自動車販売会社が倒産した場合、①社長の所在がわかれば名義変更手続きをしよう、②社長及び代表者の所在が不明の場合は会社を相手どって所有権移転登録手続き請求訴訟を起す。面倒でも必要な手続きをとるのが最もよい解決策です。

自動車の所有権が移転されていないばかりに大変大きな損害をこうむることになります。雪がとけ春が近づいてきますと、自動車を買い換える人が多いと思われませんが、所有権については特に注意して確認しておくことが必要です。

(消費生活センター)

12月16日～1月15日



▲雪に強い住宅、表彰を受ける子供たち

12月25日

北陸新幹線工事実施 計画認可申請

北陸新幹線（高崎・小松間）の工事実施計画の認可申請が日本鉄道建設公団から運輸大臣に対してなされました。

北陸新幹線の高崎・小松間の路線延長は372キロメートル（富山県内90キロメートル）、駅数は12（富山県内3駅）、工事費は13,900億円（昭和59年度価格、車両費を含まず）で計画されています。

12月25～27日

クリスマスにパソコン教室

小杉町にある県情報教育センターで、小学生のためのパソコン教室が開かれました。

これは、小学生に人気のあるコンピュータ・ゲームを、遊ぶだけの受け身の姿勢から、自らコンピュータソフトをつくるという積極姿勢を身につけてもらうことをねらいに行われたものです。

学校が冬休みに入った25日からじっくりとパーソナルコンピュータに親しんだ子供たちは、最終日には、



▲情報教育センター パソコン教室

自分がオリジナルで作った、キャラクターを思い思いに動かしていました。

情報教育センターでは、今後も、春休みや夏休みなどを利用してこのようなイベントを開催していきます。

1月5日

わたしたちの壁画'86

県立近代美術館の新春を飾る企画展「わたしたちの壁画'86」展がスタートしました。

県下の小学校20校、中学校9校、県立盲学校の各学校生徒の共同制作による作品30点を展示、2月2日までの期間中には、コンサートや手作り教室も開かれ、多くの子供たちで賑いました。

1月6日

富山県雪情報通信

システムモデル事業スタート
この事業は、関係機関の協力を得て、富山高岡広域都市圏を対象に選

び、冬季間における車の流れや路面状況等の道路交通情報と降雪予測等の気象情報を収集し、これを防災行政無線を使って、市町村役場や土木事務所等の県の出先機関に伝達するものです。

このモデル事業は、冬季の県民生活・産業活動の活性化に役立てるために的確な情報を迅速に提供することを目指して、今冬より実証研究を開始したものです。

今後さらに研究を進めて、県民の皆様のところまでの的確な情報を提供

できるようシステムの実用化に努めていきます。

1月15日

成人の日

県内各地で成人を祝う集いが、開かれました。

昭和40年4月2日から昭和41年4月1日に生まれた新成人は、男子…6,299人、女子…6,687人、合計…12,986人（昭和60年12月16日現在）です。



▲わたしたちの壁画'86展

12月18日

雪に強い住宅づくり アイデア募集表彰式

県が昨年10月に募集していた、冬期間の生活をより快適におくるための「雪に強い住宅づくりのアイデア」の入賞作品が決まり表彰式が行われました。

小中学生を対象の第1部門では、高床式住宅にし、床下に暖房機を設け、屋根と壁を二重とし、その間に温風を通す（金賞）や、排雪用の雪取りロボットを作り、レールを敷いた屋根の上を走らせる（銀賞）、建物周囲にすべり台を設け雪おろしに利用、おろした雪は地下に貯え春以降に活用する（銀賞）などの夢のあるアイデアが寄せられました。

また、第2部門（主婦を対象）、第3部門（一般対象）にも数多くのアイデアが寄せられ、合計26件がこの日の受賞となりました。

農業教育問題研究会

報告書提出

富山県農業教育問題研究会から中沖知事に「農業教育問題研究会報告書」が提出されました。

報告は、21世紀の農業を担う「ひと」づくりについて提言されており、21世紀を展望した富山県農業・農村の担い手像、学校教育（農業教育）の役割と将来展望、農業者等研修教育の構想の3章から成っています。

12月24～27日

中部日本高等学校演劇大会

第38回中部日本高等学校演劇大会が、県民会館で開催されました。

この大会は、「青少年文化運動の視点を求めて」をメインテーマに開かれたもので、ドラマの原点をみつめる、大会参加の輪を広げ学習を積み上げる、高校生のみずみずしい創造力を結集することを目標としました。

富山県からは、富山高校と呉羽高校の2校が上演したほか、県下各高校演劇部員等が実行委員として多数参加しました。



▲中部日本高等学校演劇大会

情報 スクランブル

宅地分譲

■太閤山住宅団地
 県では、小杉町南太閤山地区で宅地分譲を行っています。
 県民公園太閤山ランドに隣接し、公園や緑地スペースが整った、快適な生活環境です。
 宅地の価格は、一平方メートル当たり四万三千七百円、一区画平均三百三十平方メートルあります。
 ゆとりあるマイホームづくりをお求めの方には最適です。
 ▼問い合わせ 太閤山住宅団地建設事務所 ☎(076)561-0111(一)まで

ホックニーのカメラワーク



県立近代美術館
 2月8日～3月9日

デイヴィッド・ホックニーは、イギリスのポップアートの若きスターとしてデビューし、今や世界で最も人気の高い具象作家の1人。
 絵画、版画、舞台美術と広く活躍するホックニーが近年特に力を入れている写真作品(約100点)を展覧します。ぜひご観覧ください。

観覧料	一般	高校・大学生	小・中学生
	700 (550)	500 (350)	300 (200)

入館料を含み、常設展も観覧できます。()内は20人以上団体料金。

募集

■雪に関するアイデア

冬の富山を明るくいきいきとしたものにするため、雪の障害を克服し、雪に親み雪を利用するアイデアを募集しています。

▼応募期間 三月二十日まで

▼応募先 富山市新総曲輪一七 県庁水雪対策室

応募用紙は、県庁水雪対策室、市町村窓口にあります。多数ご応募ください。

■県立技術短期大学生

県立技術短期大学では、昭和六十一年度入学生を募集しています。

募集学科は、機械科・農業機械科・応用数学科・衛生工学科・農学科・農林土木科の各学科です。

▼出願期間 二月十七日～二十八日

▼入学検査料 一万二千元

▼学力検査日 三月十二・十三日

▼検査教科 数学・理科I、英語

▼合格発表 三月十九日

詳しくは、県立技術短期大学事務局教務課 ☎(076)615612(四九五)までお問い合わせ下さい。

■児童福祉週間の標語

五月五日(子どもの日)から十一日までは児童福祉週間ですが、この週間にふさわしい標語を募集します。標語は創作、未発表のものに限ります。

応募方法は官製葉書一枚に付き標語一点、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を記入のうえ、県庁児童家庭課「児童福祉週間標語」募集係までお送りください。締切は二月二十日です。

■立山山麓家族旅行村ケビン

立山山麓家族旅行村には八人用ケビン三棟、四人用ケビン十五棟があります。平日は、まだまだ余裕がありますのでご利用ください。ケビン利用の予約は、利用日の月を含む四ヶ月前から受け付けています。例えば、五月の場合は二月から受け付けています。利用予約等の詳しい内容は、立山山麓家族旅行村管理棟事務所 ☎(076)111-74(一)へご連絡ください。

各種相談窓口のご案内

県政については

- 県民相談室 富山市新総曲輪1-7(県庁内) ☎(0764)31-4111(代) 31-3131(県民電話)
- 高岡地方県民相談室 高岡市赤祖父211(総合庁舎内) ☎(0766)21-9411
- 魚津地方県民相談室 魚津市新宿10-7(総合庁舎内) ☎(0765)24-5311
- 砺波地方県民相談室 砺波市幸町1-7(総合庁舎内) ☎(0763)33-5151

消費生活については

- 消費生活センター 富山市安住町7-18 安住町第一生命ビル内 ☎(0764)32-2949
- 消費生活センター高岡支所 高岡市本丸町7-1 本丸会館内 ☎(0766)25-2777

暴力・サラ金などについては

- 困りごと相談所 警察本部防犯少年課 ☎(0764)33-8080
 - 覚せい剤・サラ金相談 警察本部生活保安課 ☎(0764)41-8904
 - 暴力団ゼロ110番 警察本部捜査第二課 ☎(0764)42-0110
- このほか各警察署でも受け付けています。

見てください 聞いてください 県広報

新聞広報
 ●北日本、富山、読売、北陸中日
 毎月第2土曜日
 「県からのお知らせ」
 毎月最終土曜日
 「みんなの県政」
 ●朝日、毎日
 毎月第2、最終土曜日
 「県からのお知らせ」

テレビ広報
 ●北日本放送
 毎週日曜日 AM8:00~8:30
 「こんにちは富山県です」
 ●富山テレビ放送
 毎週日曜日 AM9:00~9:30
 「110万人のひろば -クイズフォーカスイン-」

ラジオ広報
 ●FMとやま
 「ふれあいホットライン」
 県内各地からホットな話題をクリアなサウンドでおとどけます
 ●朝日、毎日
 毎週月～金曜日 AM9:30~9:35

2月の街頭献血日程

日	曜	場 所	時 間
2/6	木	氷見市役所前	10:00~15:30
8	土	富山駅前 高岡駅前	10:00~16:00 10:00~15:30
9	日	富山西武前	10:00~16:00
12	水	砺波市役所前	10:00~15:30
15	土	魚津市サンプラザ前 富山駅前	10:00~15:30 10:00~16:00
16	日	富山市中央通り前	10:00~16:00
22	土	富山駅前 高岡駅前	10:00~16:00 10:00~15:30
23	日	高岡駅前	10:00~15:30



公共的施設の

清掃・美化奉仕

勤務時間帯の都合上、県庁前公園や城址公園のベンチに朝たたずむことがあります。

今年の夏は、日照りで暑く大変だったのですが、木々の間から空を見上げ、梢の間からそよぐ風に頬をなでられていると、心地よく、青葉は一時疲れをなぐさめてくれました。

しかし、周囲は、空カン、煙草の吸い殻が散乱し、著しく美

観を損っている。ほんのちよつと歩いて捨てに行けば事はすむのですが、周囲の人は案外関心の無い様子、空カンは公衆便所や溝の中にもころがっています。駅前の自転車駐留場も同様です。私は通勤時いつもこの自転車駐留場の空カンを幾つか拾って、清掃美化運動をしています。

間一人ひとりのまちを美しくしよう、自分の生活環境をきれいに保とうとする気持ちの方がより大切だと思います。一人ひとりの気持ちとそれに伴う行動とがきつと富山を、もっともっと美しいものにしてくれると思います。そして、私は何事も、県民の一人ひとりがこの事に気付けばいいと思っています。

富山市 男性

「この県民ひろばでは、県民の皆様からの意見、提言などの投稿をお待ちしております。また、あなたが、今、富山県について思っていること、感じていることなどでもかまいません。どしどしお寄せ下さい。富山県庁広報課「県民ひろば」の係まで。」



2月号

エッセー「サルとの出会い 人との出会い」	
赤座 久明	表2
クローズアップ 雪に強い富山	1~3
豊かなふるさとを築く学習活動推進事業	4・5
シリーズ 成人病の予防	6
県政世論調査の概要	7~9
TOYAMA JUST NOW	
ステンドグラス橋 神楽橋	10・11

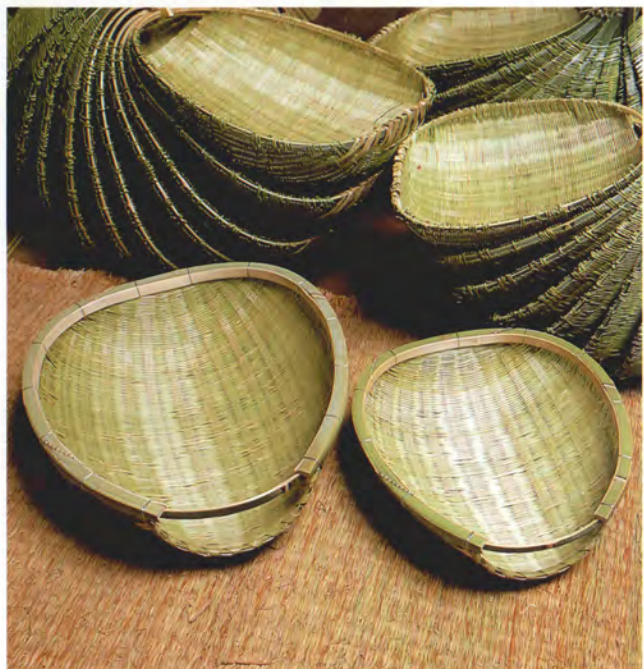
県政ルポ 県営 Gondras スキー場	12・13
くらしの情報コーナー	14
くらしの相談室	15
トピックス	16・17
情報スクランブル	18・19
県民ひろば	20
シリーズ 特産王国とやま	表3

シリーズ⑳

特産王国 とやま



氷見市の西端、石川県との境界付近の三尾地区は、竹細工の生産地、明治四十二年頃には年間五〜六万枚もの「そうけ」を生産していました。大正十三年には、竹細工組合を組織し、その後、製品の改良が加えられ、県内はもちろん石川、新潟、長



野の諸県から遠くは北海道にまで販路が及びました。戦後「まるそうけ」が実用品として喜ばれ、昭和三十年頃からは、氷見輸出製業組合が設けられ、竹簾の生産も始められました。現在は、「そうけ」以外の製品開発にも力を入れ、竹籠、御神酒口などの民芸品や日常インテリア製品なども作っています。機械を導入して製造開始された御殿簾も好評です。

約三百年ほど前に加賀藩主のすすめにより作り始められたとされる三尾そうけは、農家の副業としてその技が受け継がれてきました。現在、お年寄りが中心となって生産されていますが、いずれ劣らぬ習熟した手さばきで、見る見るうちに「そうけ」や竹籠を編み上げていきます。これからも味わい豊かな竹細工製品が、生み出され続けていくことでしょう。

国民の総意で戻そう北方領土

2月7日は「北方領土の日」

われわれが「北方領土」と呼ぶのは、歯舞群島(水晶島、秋勇留島、勇留島、志発島、多楽島など)、色丹島、国後島および択捉島の4島です。

戦後、わが国は、一貫してこれら4島の返還をソ連に対して要求し続けてきました。しかし、1956年(昭和31年)、日ソ共同宣言が署名され、両国間に国交が再開されてからすでに29年余が経過しているにもかかわらず、その返還ははまだ実現していません。

国後島
1,500km²

色丹島
255km²

歯舞群島
102km²

択捉島
3,139km²

多楽島

水晶島

志発島

貝殻島

勇留島

納沙布岬

秋勇留島

根室

北海道

これら4島は、わが国民が父祖伝来の地として受け継いできたもので、いまだかつて一度も外国の領土となったことがないという意味で、わが国固有の領土です。

北方領土問題は、つとに日ソ間の最大の問題であり、日ソ関係の改善のためには、是非ともこの問題の早急な解決が必要です。そのためには、国民一人一人が問題の正しい認識を深めなければならないと考えます。

2月7日を「北方領土の日」としたのは、北方の4島が、日本固有の領土であることを日露両国がはじめて正式に確認した1855年(安政元年)2月7日の日露通好条約の調印日にちなんだものです。